

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

名称	第9期宇治市生涯学習審議会 第2回審議会						
日時	令和元年8月30日(金)午後2時~4時						
場所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委員	○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		○	奥西 隆三	○	杉本 厚夫	○	藤林 弘
		○	木村 孝	○	永井 久敬	○	向山 ひろ子
		×	切明 友子	○	長積 仁	○	森川 知史
		○	桑原 千幸	○	中本 裕也	○	六嶋 由美子
		○	小宮山 恭子	○	西山 正一		
	事務局	○	伊賀 和彦(教育部長)				
		○	上道 貴志(教育部副部長)				
		○	市橋 公也(教育支援センター長)				
		×	福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長)				
		○	久泉 昭人(生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	深澤 博文(生涯学習課生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	上田 敦男(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)				
	○	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)					
	傍聴者	0名					

会議要旨は、下記のとおりである。

・ 第1回審議会の会議録について

修正部分を確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1. 報告事項

➤ 令和元年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について
(事務局)

令和元年度京都府社会教育委員連絡協議会総会が6月28日(金)に、京田辺市中央公民館にて開催され、3名の委員(西山委員、向山委員、森川委員)が出席された。当日は、表彰、祝辞、議事進行の後、京都府教育庁指導部社会教育課 総括社会教育主事 米澤氏より、「平成31年度社会教育を推進するために」の説明があった。その後、向日市教育委員会 学校教育課指導主事 太田氏より、「向日市立第3向陽小学校 地域学校協働活動の取組について」実践発表があった。

なお、この総会にて、森川委員が京都府社会教育委員連絡協議会の会長に就任された。

(委員)

向日市は取組を続ける努力をされているが、続けることは力がある。また、催しをするうえで、アイデアを出すことがしんどいのではないかと感じた。

(委員)

向日市のような実践発表をこれまでも聞いてきたが、どこの話を聞いても羨ましいと感じる。学校を開いて、授業や放課後の支援を地域で行い、その中でコーディネーターが重要な役割を果たしている。このような取組が宇治市で広がらなかった理由を自身が追及してこなかったことを反省している。

(委員)

今回の総会の実践発表は、学校と地域の協働をテーマにしていた。発表された取組はとくに素晴らしい事例であり、このような取組が全国で展開されているわけではない。校長が変わると状況が変わることもあり、このような現状をどのように考えていくのかが社会教育の役割ではないかと考えている。

➤ 宇治市生涯学習人材バンクについて

(事務局)

宇治市生涯学習人材バンクには、平成31年4月現在、個人71件・団体22件・合計93件の豊富な知識や技術、経験を持つ講師が登録されている。登録講師へのアンケート及び利用者からの利用報告書の提出により把握した平成30年度中の利用率は38.9%であり、昨年度より0.5ポイント上がった。当課として、引き続き交流会の開催や広報の方法を工夫するなど、人材バンクの認知度を高める取り組みに力を入れていきたい。

(委員)

人材バンクの交流会は登録講師のみの交流会なのか。

(事務局)

一般の方にも申し込んでいただけるようになっている。

(委員)

宇治市の利用率は全国的にみてどのような位置にあるのか。講師からのアンケートでは「利用なし」とされていたが、利用報告書で「利用あり」だったケースを数字として拾うのは良いと思う。講師からは何を見て依頼されたのか分からないので、知らないうちに人材バンクから依頼されていることもある。

(委員長)

広報の方法としては、どのようなものがあるのか。

(事務局)

市内の各公共施設に冊子版や概要版を配架しているほか、冊子版の更新の際には市内の各学校に出向き、広報活動を行っている。また、学校から依頼された実績のある講師をまとめたチラシを作成して、学校向けに配付をしている。

(委員長)

人材バンクの情報をホームページ等で確認することは可能か。また、どのような媒体を見て依頼されたのか把握はされているか。

(事務局)

人材バンクの情報はホームページで掲載しているが、どのような媒体から依頼されたのかは把握できていない。

(委員)

概要版等の文字のポイントを上げていただくとありがたい。あと、講師自身で講座終了後に人材バンクの広報をしてもらえたら利用率が上がると思う。

(委員)

写真が掲載されていると、どのような人なのかが分かるので依頼しやすい。

(委員)

口コミも有効だと思う。良いことだけでなく悪いことも掲載されていると良い。

(委員)

学校では、歴史や生物、障害児(者)理解教育等で利用しており、機会があれば冊子で講師を探している。

(委員長)

人材バンクの利用は、地域の人たちが学校に入る機会にもなる。今後も利用率を上げる方法の検討をお願いしたい。

(委員)

知り合いが人材バンクで講師の依頼をした際に、講師と都合が合わず、その講師からの紹介で別の講師に依頼したところ、その後も紹介された講師に依頼をするようになった。そのような場合は、紹介された講師も人材バンクに登録してもらった方が良いのか。登録

講師も増えるし、実績にも繋がると思う。

➤ 令和2年宇治市成人式実行委員会について

(事務局)

8月7日(水)に委嘱状交付式及び第1回実行委員会を開催し、男性3名、女性4名による実行委員会が結成された。令和2年1月13日(月・祝)の成人式にはぜひお越しください。

➤ 令和元年度夏休み子ども わくわくフェア(第18回)について

(事務局)

7月26日(金)、27日(土)に生涯学習センターにて開催した。来場者数は保護者等も含め2日間で約1,300名であった。1日目は12団体12コーナー、2日目は14団体14コーナー、計26団体26コーナーの出展があった。食品等販売団体はコーナーの出展者枠とは別に障害者支援団体に依頼した。参加費は、13コーナーを無料としていただき、14コーナーは有料(最大500円)で出展していただいた。大変盛況であった。

昨年、一昨年と出展していただいている「まなびんぐ」が令和元年2月15日、2月16日に開催される。出展申し込みの期限が10月末となっているので、ご検討いただきたい。

2. 協議事項

➤ 今期の審議事項について

(委員長)

前回の審議会で、委員のみなさんが所属されている団体の状況についてご意見をいただいた。それをもとに、向山委員長職務代理と事務局と事前に打ち合わせを行い、今季のテーマについて話し合った。その結果について、これから提案させていただきたい。

1960年代にヒットした歌やテレビ番組からは、当時は夢が持てた時代であったことが分かる。しかし、2000年以降は夢が持てない時代が変わった。2008年から人口減少が始まり、成長する必要がなくなったことから、成長から成熟時代へと移り変わり、教育が大きく変わる時代でもあった。成長時代は交換経済を中心とした利己主義であったが、成熟時代は贈与経済を中心とした利他主義に変わり、チャリティ文化が再興された。その結果、公助から共助への時代となり、寄付という行為を通してコミュニティを形成する社会が出現した。

共助の内容については、援助から支援に移り変わった。例えば、現在の子ども食堂のあり方は援助に近いのではないか。子どもたちが子ども食堂を運営していけるような自律支援もあるのではないかといった議論もある。自立とは、他者の世話にならないということであり、孤立を招く。一方、自律とは、他者の世話をするために生きることであり、紐帯で結びつける関係を生む。

平等には結果主義と過程主義があり、ペットボトルのお茶を人数分で均等に割る考え方

を結果主義、飲みたい人が飲みたい分量で分ける考え方を過程主義と呼ぶ。結果主義の場合、飲みたくない人やもっと飲みたい人が我慢することになり、これが絶対主義の発想に繋がる。過程主義の場合は話し合いが必要になり、これが民主主義の発想に繋がる。みんな同じという考え方は、管理がしやすいため近代教育において取り入れられてきたが、その考え方がいじめや不登校を誘発した。子どもの自由権には精神的自由権と人身の自由権を中心に様々な権利が保障されているが、今の教育において、本当にこの権利が担保されているのか。

早く答えを知りたがる子どもや、なんでもできるが言われたことしかできない先生といった事例から、自ら考えて判断する自律が育っていないことが分かる。自律的とは、相手をどれだけ信頼できるかということであり、そのような教育が現代の学校で行われているのか。このような観点から、今期の熟議テーマを「子どもの自律を育む支援の在り方」にしてはどうかと考えている。対象例としては、総合型地域スポーツクラブ、放課後子ども総合プラン、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を挙げているが、このような子どもに関わる問題を考えていくことができればと思っている。

（委員）

今朝、雨が降っていたのに、ひとつの通学班が傘をさしていなかったの、傘をさすように言った。すると、低学年の子が傘をさそうとしたが、結局傘をさすことはなく、最後まで誰も傘をささなかった。家に帰って、妻にその様子を話したところ、「それは班長がささないからだ」と言われた。傘をさすかどうかは各自の自由なのに、不思議な光景だった。

（委員）

社会そのものが自律していない状況で子どもの自律が可能なのか。大人を自律的にしていくのは難しいが、その中に子どもの自律支援が含まれるのではないかと考えている。

（委員）

対象になっているのが、小学生から中学生ぐらいの子どもだと思うが、とくに小学生の子どもたちの親の自律支援が課題だと思われる。いくら子どもを自律させようとしても親が子どもの自律を阻む原因になることもある。

（委員）

孫が保育園の年中だが、「小学校に行っても困らないように」とよく言われる。今まで自由気ままにしてきた子どもたちが集団生活で困らないようにということだと思うが、小学校に行くのと制約の多い学校生活が待っているのかなと感じた。

（委員）

私の娘が通っていた幼稚園は少し特殊で、子どもが学ぶ気になるまで放っておいて、学ぶ気になったら教えるという方針だったが、幼稚園で優秀だった子は、小学校で不登校に

なることが多かった。つまり、幼稚園では自律を育てているが、小学校に行くと適応できないということだ。

(委員)

私の地元の小学校は少人数だが、少人数の小学校から大人数の中学校に行く際に対応できる準備を、小学校のうちから先生方が行っている。少人数だからこそ自由にできる部分はあると思うが、先生方は自律に向けた支援を実践されていると感じている。

(委員)

今の学校教育はできない子をどこまで引き上げてくれるのか疑問に思う。また、小学校に入学するまでにどの程度の勉強を教える必要があるのか。今の学校は、自分で勉強することを方針としているのだろうか。

(委員長)

新しい学校指導要領では問題解決能力や課題探究能力を養うこと等が謳われている。経済産業省からは学校教育にAIの導入を提案しており、今後は知識に関する学習にAIが使われる時代が来るかもしれない。

(委員)

自分の子どもを幼稚園に入れる際に、勉強に力を入れている幼稚園と、長く預かって遊ばせてくれる幼稚園の二つの選択肢があったが、私は後者を選択した。小学3年生くらいまでは、勉強に力を入れている幼稚園から来た子の方が成績は良かったが、ある時点で成績が逆転した。どこで状況が変わるかは分からないと思った。

アルバイト先に入ってきた新入社員の子と社員との間に世代の違いによる価値観の違いがあり、軋轢が生じている。子どもたちも大事だが、自律できなかった30代までの若い世代にも支援が必要ではないかと思う。

(委員)

小学校に入った段階で、できる子とできない子の差が大きかった場合、できない子が学校嫌いにならないか心配である。

(委員)

多様性の社会の中で、子どもの選択を認めることが大事だと感じている。私は自分の子どもを育てる時に、選択する力が身に付けられるように意識していた。

(委員)

学校に地域の人が入っていない現状があり、対象例に挙げられているような地域の人が学校に関わるような取組をしたいと考えている。今は個人情報の関係もあり、学校が閉鎖

的になっている。

(委員)

社会を自律的にしていかなければならないと思っているが、現実問題としてそれは難しい。対して、学校と地域が連携して子どもを育てていくことは、結論が出やすい議論だと感じた。

(委員)

地元の中学校で開催しているお祭りは、地域を巻き込むことをテーマにしている。最近協賛金を集めているが、協賛金を集める目的が子どもを育てるためではなく、お祭りを開催することになってきていると感じ、反省した。

(委員)

答えのないところに問いをたてて、考え抜く力を身に付けさせることが自律に繋がると考えている。しかし、どのようにそれを取組として実践したらいいのか。生涯学習審議会として、どのような視点から問題を考えるのか、事前に整理する必要があると感じた。

(委員)

新学習指導要領では、「主体的な子どもを育てる」「コミュニケーションが取れるようにする」ことが謳われている。その中で、子どもの自律が求められているが、昔とは違って、しつけをされないまま小学校に入ってくる子どもは多い。そのような状況の中で、学校だけで自律を育むのは難しい。子どもを中心として、家庭・地域・学校の三者が関わって子どもを育てることが必要であり、それぞれの立場でどのような役割を果たすのかを検討する必要があると考えている。

(委員長)

この議論は難しいと考えているが、難しいからこそ、この場で話し合う必要あると思っている。この問題を考える際に、子どもを取っ掛かりにすることで、問題について考える人が増えるのではないかと考えている。最初は議論の内容が色んな方向に向くかもしれないが、議論を深めていくことで内容が収斂されていくのではないかと。私は、対象例に挙げた3つの取組に関わっているが、全ての取組に共通するテーマが自律であると感じている。その自律を支援する方法について、この場で考えていきたい。今期のテーマについてはじっくり議論して決めたいと考えているので、もう一度意見を出し合う場を設けたいと思う。

3. その他

➤ 第61回全国社会教育研究大会(兵庫大会)

(事務局)

第61回全国社会教育研究大会(兵庫大会)が10月23日(水)から10月25日(金)

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

まで開催される。今回の全国大会は近畿大会を兼ねている。宇治市は最終日の10月25日（金）の分科会に参加する予定で、当日は朝7時に宇治市役所議会棟前に集合となっている。出欠は取っており、6名の委員にご参加いただく予定である。

➤ 令和元年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会

（事務局）

令和元年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会が10月8日（火）午後1時から午後4時15分まで、精華町むくのきセンターで開催される。職員の同行と車両の運行はないが、参加申し込みは事務局でとりまとめるので、参加を希望される方は9月6日（金）までに、事務局へお知らせください。

・ 最後に

（委員長職務代理）

協議事項のはじめには、大学の講義のような貴重なお話を聞かせていただいた。今期の大切なテーマについて、今後も意見を出し合って皆さんと決めていきたい。

< 次回の会議について >

令和元年10月31日（木）午後2時00分から 生涯学習センターにて